

株式の状況（2024年3月31日現在）

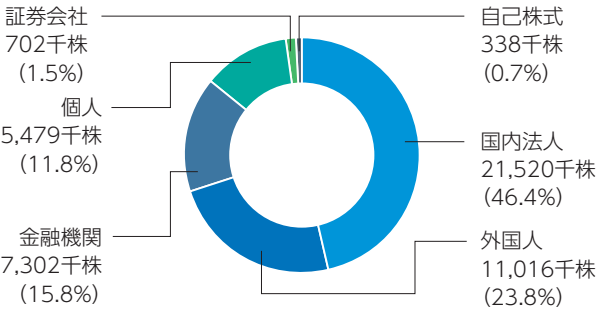
発行可能株式総数	101,568,000 株
発行済株式総数	46,359,700 株
株主総数	11,499 名

大株主（上位10名）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
東ソー株式会社	20,379	44.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3,528	7.67
株式会社日本カस्टディ銀行（信託口）	1,760	3.83
KBC BANK NV - UCITS CLIENTS NON TREATY	843	1.83
DZ PRIVATBANK S.A. RE INVESTMENTFONDS	646	1.40
野村信託銀行株式会社（投信口）	614	1.33
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	515	1.12
株式会社みずほ銀行	464	1.01
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	398	0.87
JP MORGAN CHASE BANK 385781	361	0.79

※持株比率は自己株式（338,284株）を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8 経営統括本部 経営企画部 電話 03-5635-5111
当社ウェブサイト <https://www.organo.co.jp/>



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	6月		
基準日	定時株主総会の議決権	3月31日	
	期 末 配 当	3月31日	
	中 間 配 当	9月30日	
単元株式数	100株		
公告掲載方法	電子公告 公告掲載URL https://www.organo.co.jp/ ただし、事故その他のやむを得ない事由によつて電子公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。		
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社		
連絡先 ▶ 郵便物送付先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号		
▶ 電話照会先	0120-782-031（フリーダイヤル）		
上場証券取引所	東京証券取引所（プライム市場）		

株式に関する諸手続のお申し出先について

- 住所変更、配当金受領方法の指定、単元未満株式の買取請求及び買増請求などの株式の諸手続につきましては、お取引のある証券会社にお申し出ください。
- 証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主様の株式の諸手続につきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
- 未受領の配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社の全国本支店（コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く）でお取り扱いいたします。



第79期 株主通信

2023年4月1日 ▶ 2024年3月31日

オルガノ株式会社

証券コード：6368

経営理念・経営ビジョン

経営理念

オルガノは
水で培った先端技術を駆使して
未来をつくる産業と
社会基盤の発展に貢献する
パートナー企業としてあり続けます

長期経営ビジョン

付加価値の高い分離精製・分析・
製造技術を基に、
事業領域と展開地域を拡大し、
産業と社会の価値創造と課題解決
を推進する製品・サービスを
絶えず提供します

昨日までのやり方を、
明日に向けて、
今日変える人をつくり、
一人ひとりが働きがいと
活力に満ちた企業を構築します

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社第79期事業年度（2023年度）の概況をご報告申し上げます。

当期の世界経済は、中国景気の減速や中東などにおける地政学的リスクの高まりが影響する一方で、わが国においては日経平均株価が最高値を34年ぶりに更新するなど、経済が上向きとなる動きが見られつつあります。当社グループの主力市場である電子産業分野においては、AI（人工知能）などに向けた最先端半導体の投資に加え、EV（電気自動車）向けの車載用半導体や半導体材料に対する設備投資が高い水準で推移いたしました。

このような状況の下、当社グループは国内・海外で大型プロジェクトの受注・納入活動を推進するため、生産・納入キャパシティの拡大に取り組んでおります。

この結果、受注高は大型案件の投資が相次いだ前年度から減少しておりますが、売上高及び各利益は前年度の実績及び期初の計画を上回り、3年連続で過去最高を更新いたしました。

当期の期末配当金につきましては、好調な業績を踏まえ、1株当たり61円といたしました。なお、2022年10月1日に実施した株式分割（1株→4株）を考慮すると、前期の年間配当金は62円に相当するため、中間配当金41円を含めた当期の年間配当金は、前期から40円増配の102円となります。今後も増配を継続するとともに、配当性向30%以上の水準を目指すなど、株主還元の拡充を図ってまいります。

世界の半導体市場は、2030年までに1兆米ドルに達すると予測され、経済安全保障の観点からも半導体製造地はグローバルに拡大することが見込まれます。引き続き国内外で高い水準での半導体関連の大型プロジェクトの投資計画が期待でき、拡大するニーズに対応すべくグローバルでの人材確保や育成、サプライチェーンの強化など生産・納入キャパシティの拡大に取り組んでまいります。また、さらなる成長に向けて事業領域と展開地域の拡大を目指しており、高度分離精製技術の開発・事業化や北米での事業拡大などを積極的に進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

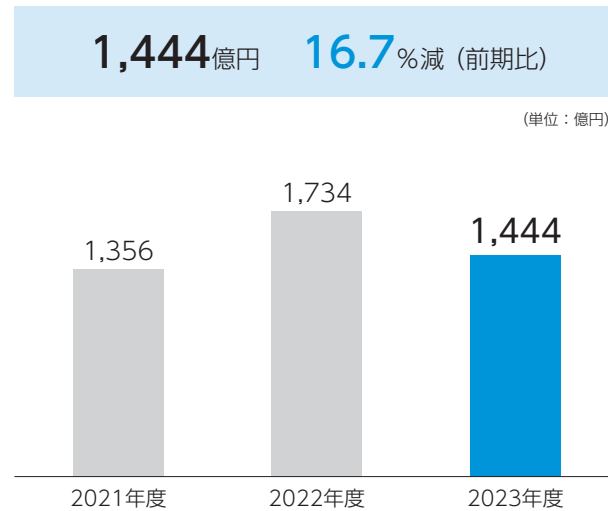
2024年6月

代表取締役社長 社長執行役員

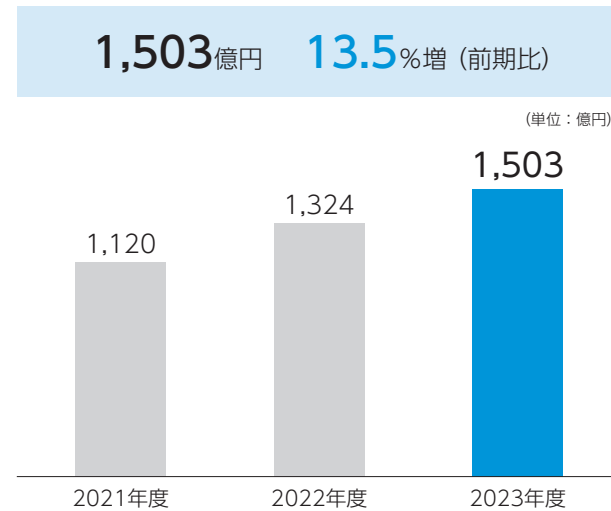
山田正幸



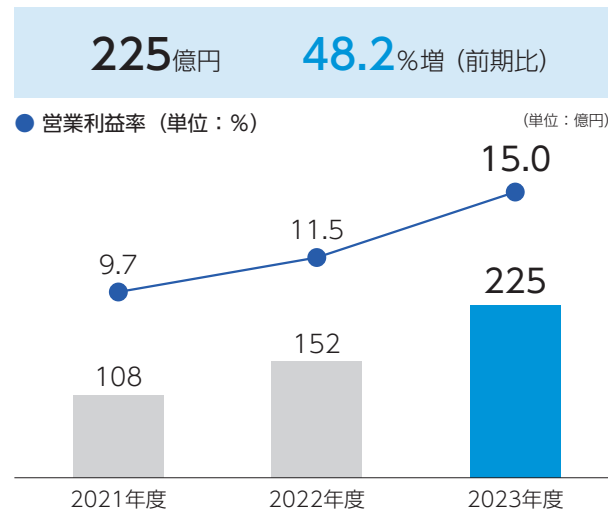
受注高



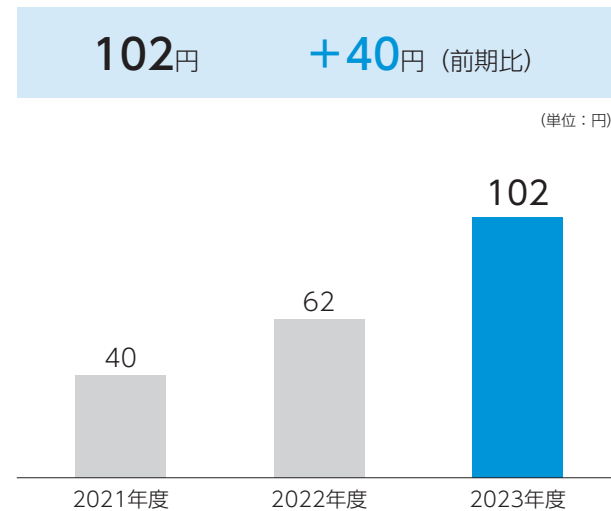
売上高



営業利益（率）

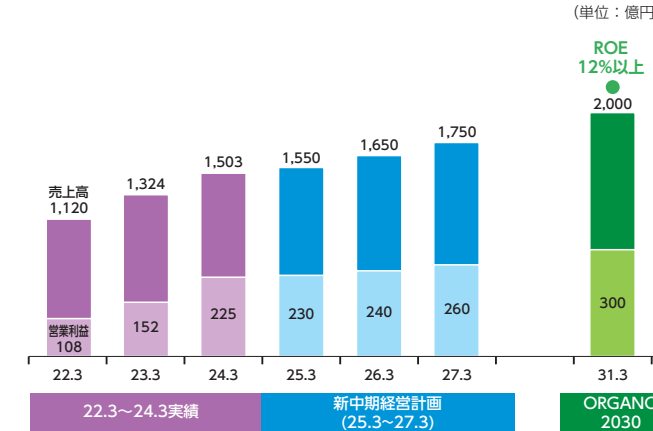


1株当たり配当金



※配当金額は2022年10月1日の株式分割（1株→4株）を考慮した金額です。

●目標値と概要



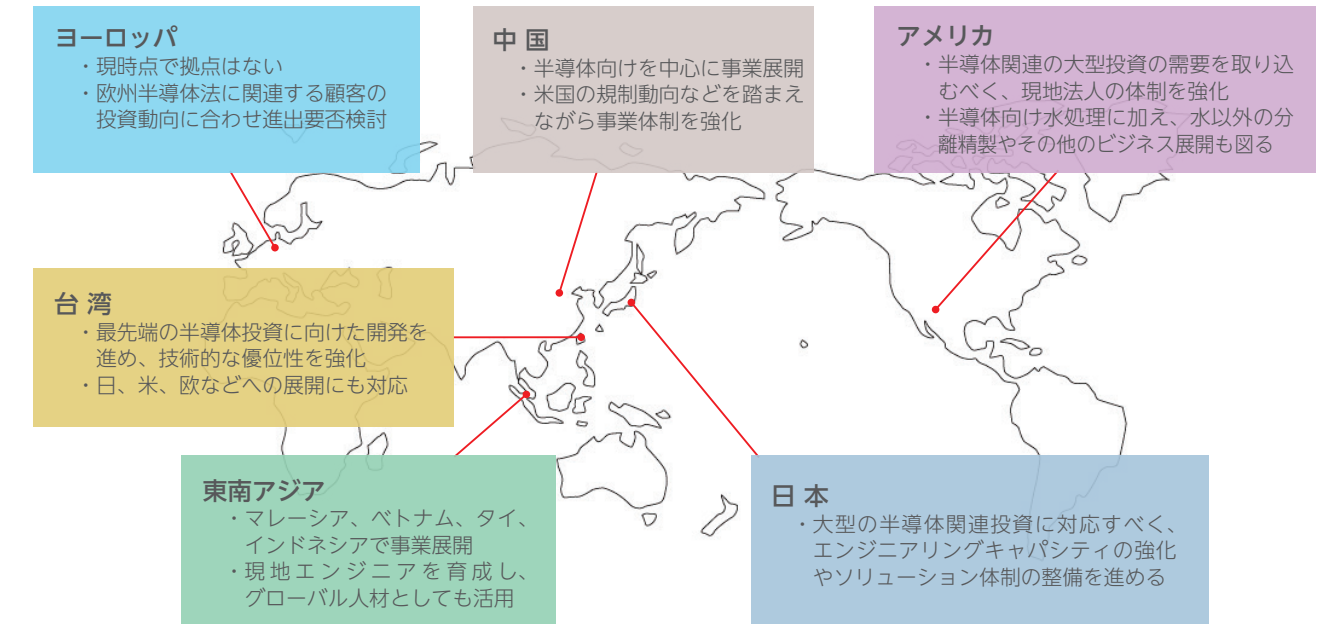
■長期計画ORGANO 2030

- ・2030年度に売上高2,000億円以上、営業利益率15%以上、ROE12%以上を目指す
- ・アメリカでの展開などグローバル戦略を強化（下図参照）
- ・高度分離精製や水回収など、省エネや脱炭素などサステナビリティ課題に貢献する新たなソリューションサービスを拡充
- ・M&Aなどインオーガニックな成長にも取り組む

■次期3ヵ年計画

- ・2026年度に売上高1,750億円、営業利益260億円の達成を目指す
- ・国内外で計画される半導体関連の複数の大型案件の受注を想定
- ・エンジニアリングキャパシティの拡充を推進
- ・設備保有型契約や各種メンテ・薬品などソリューションや機能商品の拡大にも取り組む

●グローバル展開戦略



セグメント別の概況

水処理エンジニアリング事業

売上高は、電子産業分野及び一般産業分野で大型案件の工事が順調に進捗したことに加え、ソリューション事業も好調に推移したことから増収となりました。電力・上下水など社会インフラ分野においては、浄水場案件などのプラント工事が減少したことから売上高が若干減少しております。

利益面では、電子産業分野や一般産業分野における大型案件の増加やソリューション事業の拡大により増益となりました。

ソリューション事業



592億円
(46.3%)

- 消耗品交換・メンテナンス
- 運転管理・包括メンテナンス
- 改造工事
- 水処理加工受託

プラント事業



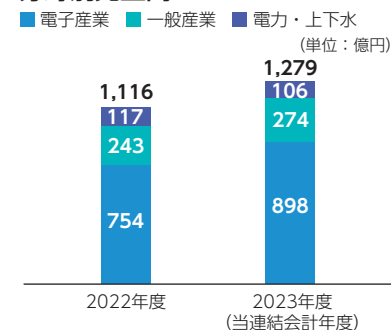
687億円
(53.7%)

- 純水・超純水製造設備
- 用水処理設備
- 排水処理・排水回収設備
- 有価物回収設備
- プロセス関連設備

売上高 1,279億円
営業利益 195億円



分野別売上高



機能商品事業

売上高は、電子産業向け水処理薬品の販売が好調に推移、標準型水処理機器・フィルタ分野の小型純水装置や浄水フィルタの売上が増加、また食品分野では加工食品向け食品添加剤の販売の好調により、増収となりました。

利益面では、各分野での売上拡大に加え、水処理薬品で利益率の高い製品が伸長したこと、原材料価格の上昇に伴う価格転嫁が進んだことなどから増益となりました。

食品事業



- 食品素材
- 食品添加剤

62億円
(28.0%)

標準型水処理機器・フィルタ事業



- 純水・超純水製造装置
- 浄水フィルタ

75億円
(33.6%)

水処理薬品事業



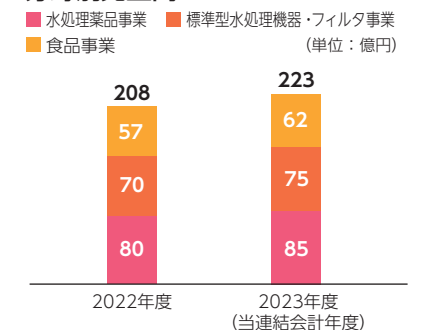
85億円
(38.4%)

- RO水処理薬品、排水処理薬品、冷却水処理薬品、洗浄薬品、ボイラ水処理薬品

売上高 223億円
営業利益 29億円



分野別売上高



Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社（JASM） 熊本第一工場開所式へ出席

2024年2月24日、半導体受託生産世界最大手の台湾積体電路製造股份有限公司（以下、TSMC）が熊本県菊陽町で建設を進めてきた製造子会社JASMの開所式が開かれました。当社も招待を受け、代表取締役社長の山田正幸が出席しました。TSMCとしては日本で初となる製造拠点のお披露目であり、TSMCからは創業者のMorris Chang博士や経営陣、日本からは経済産業大臣、熊本県知事ら多くの関係者が参加されました。JASM第一工場は2024年末までの量産開始が予定されており、続く第二工場の建設計画も既に発表されています。

グローバルで高まる半導体需要への対応を、当社としても最先端の分離精製及び分析技術で引き続き支えてまいります。



写真：JASM（株）提供

ラボラトリー向け超純水装置 「ピューリックωⅡ（オメガⅡ）」を発売開始

分析や研究に用いられる小型超純水装置、「ピューリックωⅡ（オメガⅡ）」を2023年12月5日に発売しました。極微量分析（ICP-MS、LC-MS等の1兆分の1（ppt）レベルの分析）に利用できる超純水を、1滴から供給できるキャビネットタイプの装置です。

試料中の元素や化合物の特定、それらの定量分析精度は年々高度化しており、これに伴い水質要求レベルも高まっています。このようなニーズを満たすべく開発を進めた結果、処理水の金属イオン、ホウ素などは従来よりも一桁以上低い値となり、当社の小型超純水装置史上では最高純度の水質を達成しました。

<https://puric.organo.co.jp/lineup/omega2/>



日経CNBC朝エクスプレス「トップに聞く」への出演ご紹介



2024年3月29日、マーケット番組の日経CNBC朝エクスプレス「トップに聞く」コーナーに、代表取締役社長の山田正幸が出演しました。上場企業・団体のトップをゲストに招き、様々な切り口から成長戦略や競争環境などを生放送で伝えるコーナーです。番組内では、当社の成長戦略を説明しています。

以下からアーカイブ映像をご覧いただくことができます。
https://www.organo.co.jp/pressrelease/ir/nikkeicnbc_20240329/
※動画視聴期間：2025年3月31日（月）まで



IRメールニュースサービスを開始

最新の適時開示情報など、当社のIRに関する情報について、ご登録のメールアドレスにお知らせするサービスを開始しました。

<https://www.organo.co.jp/ir/mail-news/>



連結貸借対照表（要旨）

(単位：百万円)

科 目	前期末 2023年3月31日現在	当期末 2024年3月31日現在
資産の部		
流動資産	136,765	153,469
固定資産	28,088	29,233
有形固定資産	20,795	20,634
無形固定資産	949	986
投資その他の資産	6,343	7,613
資産合計	164,854	182,703
負債の部		
流動負債	68,738	72,602
固定負債	9,744	7,953
負債合計	78,483	80,555
純資産の部		
株主資本	84,123	98,122
資本金	8,225	8,225
資本剰余金	7,508	7,508
利益剰余金	69,002	82,907
自己株式	△ 613	△ 518
その他の包括利益累計額	2,047	3,805
非支配株主持分	201	219
純資産合計	86,371	102,147
負債純資産合計	164,854	182,703

■ 資産の部

リース投資資産や売掛金の増加などにより、17,849百万円増加しました。

■ 負債の部

長期借入金が減少したものの、短期借入金の増加などにより2,072百万円増加しました。

■ 純資産の部

親会社株主に帰属する当期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加などにより15,776百万円増加しました。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

3,726百万円の資金増加となりました。主な支出は水処理加工受託用設備の建設によるものであり、主な資金増加は税金等調整前当期純利益によるものです。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

1,415百万円の資金流出となりました。主な支出は有形固定資産の取得によるものです。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

641百万円の資金流出となりました。主な資金増加は短期借入金によるものであり、主な支出は配当金の支払いと長期借入金の返済によるものです。
当期末の現金及び現金同等物は前期末に比べ2,084百万円増加し、17,642百万円になりました。

連結損益計算書（要旨）

(単位：百万円)

科 目	前 期 2022年4月1日～2023年3月31日	当 期 2023年4月1日～2024年3月31日
売上高	132,426	150,356
売上原価	97,449	106,514
売上総利益	34,976	43,841
販売費及び一般管理費	19,763	21,297
営業利益	15,212	22,544
営業外収益	978	1,142
営業外費用	170	261
経常利益	16,020	23,425
特別利益	46	262
特別損失	31	55
税金等調整前当期純利益	16,035	23,633
法人税等	4,270	6,298
当期純利益	11,764	17,334
非支配株主に帰属する当期純利益	34	24
親会社株主に帰属する当期純利益	11,730	17,310

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

(単位：百万円)

科 目	前 期 2022年4月1日～2023年3月31日	当 期 2023年4月1日～2024年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 18,536	3,726
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,309	△ 1,415
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,706	△ 641
現金及び現金同等物に係る換算差額	500	415
現金及び現金同等物の増減額	△ 4,639	2,084
現金及び現金同等物の期首残高	20,198	15,558
現金及び現金同等物の期末残高	15,558	17,642

■ 会社概要

商 号	オルガノ株式会社 (英文 ORGANO CORPORATION)
本 社	〒136－8631 東京都江東区新砂 1 丁目 2 番 8 号
創 業	1946年 5 月 1 日
資本金	8,225,499,312円
従業員数	連結2,512名（単体1,142名）
事業内容	当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品、食品加工材の販売を主な事業としております。

■ 主要な事業所

開発センター	相模原
工 場	つくば、いわき
支 店	北海道、東北、関東、中部、関西、中国、九州

■ 主要なグループ会社

連結対象子会社	
国 内	海 外
オルガノプラントサービス（株）	オルガノ（アジア）SDN.BHD.
オルガノフードテック（株）	オルガノ（蘇州）水処理有限公司
オルガノエコテクノ（株）※	オルガノ・テクノロジー有限公司
オルガノアクティ（株）	オルガノ（タイランド）CO.,LTD.
	PTラウタン・オルガノ・ウォーター
	オルガノ（ベトナム）CO.,LTD.
	オルガノUSA, Inc.

その他グループ会社

国 内
（株）ホステック
東北電機鉄工（株）
※当社は、2024年 4 月 1 日付にてオルガノエコテクノ（株）を吸収合併いたしました。

■ 取締役・監査役（2024年6月27日時点）

代表取締役社長	山 田 正 幸
取 締 役	中 山 泰 利
取 締 役	須 田 信 良
取 締 役	本 多 哲 之
社 外 取 締 役	平 井 憲 次
社 外 取 締 役	和 田 守 史
社 外 取 締 役	安 部 大 作
社 外 取 締 役	花 野 信 子
社 外 取 締 役	児 玉 直 美
常 勤 監 査 役	田 實 嘉 宏
社 外 監 査 役	樋 口 達 達
社 外 監 査 役	児 玉 弘 仁

■ 執行役員（2024年6月27日時点）

社 長 執 行 役 員	※ 山 田 正 幸
常 務 執 行 役 員	※ 中 山 泰 利
常 務 執 行 役 員	※ 須 田 信 良
常 務 執 行 役 員	※ 本 多 哲 之
常 務 執 行 役 員	浅 野 伸
常 務 執 行 役 員	富 沢 真
常 務 執 行 役 員	久 木 崎 誠
常 務 執 行 役 員	小 池 省 次 郎
執 行 役 員	島 田 健
執 行 役 員	秋 元 英 良
執 行 役 員	雨 宮 徹
執 行 役 員	江 口 正 浩
執 行 役 員	笠 原 里 志
執 行 役 員	外 川 晶 久

※は取締役兼務者です。